

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
G202	マクロ経済学 I	2年	講義	2	大石和博
<b>授業概要</b> マクロ経済学 I はシティライフに関連する様々な要素を理解するために必要な科目です。2年次において最も重要な科目の一つであり、必修科目となっています。受講者がマクロ経済学を各分野に応用することを念頭において、経済全体の生産や所得がどのように集計され、経済全体がモデル化されているかを説明します。特に、雇用、物価、所得など、経済全体にかかわる問題を考察します。マクロ経済が身近に感じられるように、新聞紙面に出てくる主要なマクロ経済統計の使い方や弱点にも触れたいと思います。					
<b>到達目標(学習の成果)</b> ・マクロ経済学の基本的な用語(名目、実質、生産要素、貨幣供給量など)や経済指標(GDP、消費者物価指数、失業率など)について説明することができる。(DP3) ・比較静学分析を行うことができる。(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	マクロ経済学の世界ようこそ!	講義概要、第1章 マクロ経済学者は何を研究するか			
2	マクロ経済学のデータ(1)	第2章 GDP(国内総生産)算出上のルール			
3	マクロ経済学のデータ(2)	第2章 帰属計算			
4	マクロ経済学のデータ(3)	第2章 実質GDP、名目GDP、GDPデフレーター			
5	マクロ経済学のデータ(4)	第2章 支出の構成要素			
6	マクロ経済学のデータ(5)	第2章 生計費の測定(消費者物価指数)			
7	マクロ経済学のデータ(6)	第2章 失業の測定(労働力人口、労働市場参加率)			
8	国民所得(1)	第2章 失業の測定(失業率)			
9	国民所得(2)	第3章 財・サービスの総生産を決めるのは何か			
10	国民所得(3)	第3章 国民所得は生産要素にどのように分配されるか			
11	国民所得(4)	第3章 財・サービスの需要を決めるのは何か			
12	国民所得(5)	第3章 財・サービスの需要と供給を均衡させるものは何か			
13	貨幣システム(1)	第4章 貨幣とは何か			
14	貨幣システム(2)	第4章 貨幣システムにおける銀行の役割			
15	貨幣システム(3)	第4章 マネーサプライへの中央銀行の影響			

準備学修(授業外の自己学修)

最もよい準備学修は新聞を読むことです。特に、『日本経済新聞』をできるだけ毎日読むようにしてください。

成績評価の方法・基準(%表記)

原則として、提出物(20%程度)、期末試験(80%程度)で評価します。ただし、遅刻、欠席および受講態度不良は減点の対象となることがありますので注意してください。

観点	S	A	B	C
マクロ経済学の基本的な用語および経済指標について説明することができる。	マクロ経済学の基本的な用語・経済指標を「十分に」理解し、教科書レベルの問題を9割以上正しく解答することができる。	マクロ経済学の基本的な用語・経済指標を「ほぼ十分に」理解し、教科書レベルの問題を8割以上9割未満正しく解答できる。	マクロ経済学の基本的な用語・経済指標を「かなりの程度」理解し、教科書レベルの問題を7割以上8割未満正しく解答できる。	マクロ経済学の基本的な用語・経済指標を「ある程度」理解し、教科書レベルの問題を6割以上7割未満正しく解答できる。
比較静学分析を行うことができる。	数値例を用いて「正確に」分析でき、教科書レベルの問題を9割以上正しく解答することができる。	数値例を用いて「ほぼ正確に」分析でき、教科書レベルの問題を8割以上9割未満正しく解答できる。	数値例を用いて「かなりの程度」分析でき、教科書レベルの問題を7割以上8割未満正しく解答できる。	数値例を用いて「ある程度」分析でき、教科書レベルの問題を6割以上7割未満正しく解答できる。

教科書

下記の教科書を使用します。

N. グレゴリー・マンキュー 『マンキュー マクロ経済学I入門篇(第4版)』東洋経済新報社、2017年、税込み 4,104円。

参考になる本

- ① 吉川洋『マクロ経済学(第3版)』岩波書店、2009年。
- ② 福田慎一ほか『マクロ経済学・入門(第5版)』有斐閣、2016年。

履修上の注意・学修支援

なし